

< 講演会 >

『豊かな感性をはぐくむ修学旅行』

東京学芸大学名誉教授 児島 邦宏 先生

修学旅行のねらい～生徒にどんな力を育むか

(1) 遠足・修学旅行のねらい

「郊外の豊かな自然や文化に触れる体験を与え、学校における学習活動を充実発展させる。また、郊外における集団活動を通して、教師と児童生徒、児童生徒相互のふれあいを深め、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積むことによって、望ましい成長を図る。」

教師と児童生徒および児童生徒相互の人間的なふれあいを経験し、人間としての生き方について自覚を深めるとともに、生涯の楽しい思い出を作ることができる。

我が国の文化・経済・産業・政治などの重要地を直接見聞したり、大自然の美しさに接したりすることによって、各教科そのほかにおける学習を拡充することができ、広い知見と豊かな情操を育成する。

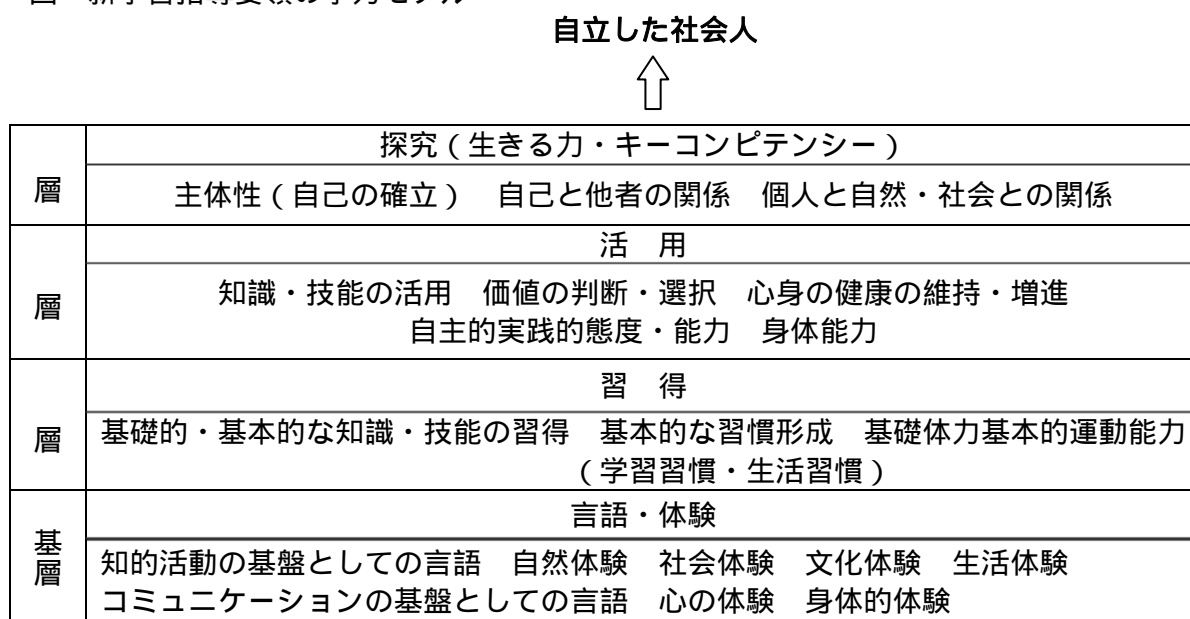
楽しい豊かな集団生活を通して、健康や安全、集団活動の決まり、公衆道徳などについて望ましい体験を得る。

(2) 学習モデルと修学旅行

習得 活用 探究

知の総合、活用、実践の過程としての修学旅行 仕上げ、到達点

図 新学習指導要領の学力モデル



探究（生きる力）の過程と修学旅行

- ・自己を知り、自己を確立する（しっかりとした自分、生きざま、将来設計など）
- ・他者（友人、地域の人、他人）との関係とふれあい・交流（共に生きる）
- ・自然・文化・産業・伝統・ものづくりとの出会いと保護・保全
- ・社会とのふれあいと地域交流、地域貢献、郷土愛（社会を見る目・自己を見る目）
- ・学校教育を総合・横断し、現実の社会に挑戦し、自立の基礎を養う

教科横断・総合としての修学旅行

社会的挑戦(我が町を売り込む：岩手、和田町)

学んだことを生かしてみる

指導の方法（学習の方法）

(1) 体験的学習

感覚的認識と学ぶ意欲（体で知る）

知の実践、活用と体験

知を生かす、学んだことを確かめる、学んだことの力を実感する

共に学ぶ、共に生きる（知恵を出しあう、相談する）

指導の過程

(1) 事前指導

計画し、下調べをし、課題をもって参加する

(2) 体験活動（事中）

見る、聞く、味合う、匂いを嗅ぐ、触れる、考える

(3) 事後指導

体験したことの「価値づけ、意味づけ」

発表会による学びの交換（特殊体験の一般化）

課題

(1) ねらいを鋭く

多様なねらいとあいまいさ

(2) 生活をつくる・自立の目

2泊3日と3泊4日の差

(3) 事後の価値付け

(4) 社会に生きる（修学旅行とキャリア形成）

その後の生き方として何を学ぶか（終わり始まり）